



## 議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

「議題」については、事務局から説明後、出席者による自由討議が行われた。

討議の概要は、以下のとおり。

### ○ 議 題

#### 1 川越市産業振興ビジョン（案）について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

（会 長）カーボンニュートラルについて、文言としては述べられているが、工業関係のところでも具体的にしているかどうか。SDGs についても、それ自体の説明は表現としてあるが、環境問題などどこで具体的に触れているのか。

（事務局）カーボンニュートラルは環境経営のところでも、SDGs は商店街のところでも具体的に表現しているほか、その他の項目でも SDGs の考え方を基本として、それぞれ取り組んでいくというイメージでご理解いただきたい。

（会 長）時代の潮流であり、どこかで具体的に表現してほしい。

（副会長）中小企業の経営基盤の強化という部分が非常に大切だと感じている。中小企業は生産性が低いという問題があって、いかに生産性を向上させていくのか、収益率をアップさせていくのかというのも、大きな課題の 1 つと考える。

（委 員）産業振興ビジョンの位置付けとして、農業振興は除外して、このビジョンは作られていると考えてよいか。

（事務局）関連計画として農業振興計画と観光振興計画があり、大きな部分はそちらに委ねており、商業や工業を中心とした記載としている。

（委 員）開設事業所の推移について、平成 23 年度から平成 28 年度まで掲載されているが、3分の1まで開設数が減っていて、新しいデータはまだ減少傾向が続いているのか。また、これをどう分析して、何故減少しているのか検証したのか。

（事務局）開設事業所数の減少は、掲載データからとらえるとそういう傾向が続いているものと推察される。この傾向についての分析や検証はできていない。

（委 員）市の発展を考えると、働く人、住んでいる人、新しく事業を開設しようとする数が非常に重要な指標となるので、今後、分析の結果を教えてください。

また、産業振興ビジョンを考える際に、多くは産業分類で第 1 次・第 2 次・第 3 次に分けて記述して、その分野ごとに記述がなされる傾向にあるが、昨今の企業を見ると、競争が多様化している印象がある。水平的な競争だけでなく、垂直的な競争が起きている。新しい時代を切り開いていく、新しいルールを作っていく企業にはやはり注目しなければならない。産業別の就業者数の推移において、一番上に「産業分類不能」というのがある。これが以前よりずいぶんと増えているのではないかと思う。今後、この辺も分析して紹介してほしい。

（事務局）まさにそういったところに今後は注目していかなければならない。計画期間内において分析し、反映できるものは反映していければと思う。

(委員) 基本目標1の開設事業所数の数値目標について、コロナ禍ということもあり、つぶれている事業所も多いと思うが、その件数に対して、この目標値はどうか。

(事務局) 開設事業所数の数値目標は、第四次川越市総合計画後期基本計画と合わせた値で設定しており、ご指摘のとおり、現状多くの会社が閉鎖している中で、この開設事業所数が多いのではないかとすることは理解しつつも、この数値を設定している。

(委員) SDGsについて、先ほども発言がありましたが、さまざまな形でSDGsに絡んだ施策があることは理解している。だが、一般の方はSDGsに馴染みがなく、どれがSDGsに関連しているのか、自らがSDGsに自信を持って取り組んでいるというのが分からないということもある。

(委員) ビジョンを継続的に作っていくにあたって、一気に変えることが難しいとは感じる。一方で、コロナ禍で環境は劇的に変わっているとも感じている。その中で、カーボンニュートラルに関しては、川越市もカーボンニュートラルについて宣言していると思う。中小企業にとってはビジネスチャンスでもあり、市としても達成しなければならないという方向性を出している以上は、もう少しクローズアップした形で、項目を立てた方がより具体的になると思う。

(事務局) ご指摘のとおり、市としても脱炭素宣言をしており、具体的な取組を産業振興ビジョンの中でどこまで謳うのかという部分はあるが、頂いた意見を参考にしながら、入れられる部分についてもう少し検討したい。

(委員) 基本理念について「次の100年も選ばれ続ける」とある。川越の歴史を踏まえると、個人的には「次の100年も色あせない」などの情緒的な言葉の方が、川越らしいのかなと感じた。修正は難しいと思うが、意見として述べさせていただく。

(事務局) 「色あせない」の方が川越らしいという意見をいただいた。審議会のご意見をいただく場であり、他の委員から何かご意見があれば変更することも可能である。

(委員) 商店街の活性化と関連して、川越にはいろいろな観光の場があるが、観光客に対してアピールが少ないと思う。もっと発信していただきたい。

(事務局) 観光に関係のある産業振興の部分については、地域資源の活用ということで少し触れている。

(委員) 第1章の統計データについて、国のデータを使っているのでは仕方ない部分だと思うが、令和4年度にできる計画が平成28年度の数値しかないということでは、どうやって現状を把握するのかという印象を持たれてしまうのではないかと思う。

また、施策の推進の数値目標について、何故この数値にしたのかという考え方が書いてあれば、読む人にとっては分かりやすいと思う。

さらに、SDGsやDX等の新しい概念について、企業も理解できないし、それに対して何をするというのを書くことも難しいと思う。DXとはこういうものとか、SDGsとはこういうものというのが、もう少し詳しく書かれた方がいいと思った。

(事務局) 統計データは、ご指摘のとおり平成28年度の経済センサスと書かれているものが多くっており、これは国の統計では、これが最新ということでこの数値を用いている。一方、埼玉県や市が独自に持っているデータのうち活用できるものはなるべく活用している。市として全体を把握するような集計方法等がないということもあり、現状はこのようになっているということをご理解いただきたい。

目標値の説明について、中には数値目標が下がるなど分かりづらいものもあり、スペースの問題はあるものの検討させていただきたい。

DX や SDGs の説明については、簡単ではあるがトピックスとして触れている。

(委員) 9 ページに「そのうち 75 歳以上の人口は 1 万 1 千人と見込まれます」とあるが、実際は 75 歳以上の人口は 5 万人いるので、「そのうち 75 歳以上の人口増は」としてもらった方が分かりやすい。

(委員) 農業関係の現状のデータに違和感がある。例えば、農家数は令和 2 年では 1,250 件だが、以前の数値として平成 27 年からとても減っている。データの集計方法が変更されたというのがあるが、例えば組合員のいる家庭数では、大体 4,500 件くらいあります。これに対して農家数が 1,250 件ということはかなり違う。耕地面積は令和 2 年では 1,286ha となっているが、別の形で把握している田んぼとして耕作している面積は、大体 1,600ha くらいあると把握している。農業の産出額も、川越だけに絞ってデータを出すことは難しいが、それにしても少ないという感触がある。

(事務局) それぞれ国の統計である農林業センサス等を用いており、実際に感じているものとは少しずれているのかなと思う。また、集計方法が変わった影響が大きいので、そこについては※印という形で補足の説明をしている。

(委員) 前回、農商工連携や社会課題解決ビジネスについて話をさせていただき、それなりにビジョンの中に盛り込まれていて、きちっと整理されているので、ビジョンそのものはこのままでいいと思う。一方で、農業・観光振興計画に委ねているが故に、まだまだ川越にあるポテンシャルが出てこなくなっている部分もあると思う。その辺の背景も、徐々に見直していけるといいのではと思う。それによって、より川越ならではの、わくわく感のあるビジョンが出てくると思う。観光や農商工連携は政策的には分かれてしまうかもしれないが、融合すると新たな価値を生み出すものなので、次回の計画に向けて考えてもいいのではないかなと思う。

(事務局) 産業間連携の推進という形で一部取り上げてはいるが、今後はそういったものを意識しながら、進めていく必要があると考える。今回のビジョンの反映には難しいかもしれないが、計画期間において取り組むと同時に、次のビジョンを策定するにあたっては、必要な考え方だと思うので、引き続き研究していきたい。

(会長) いろいろと前向きな意見をいただいた。修正あるいは課題については、皆様からいただいた意見を検討したうえで反映し、パブリックコメントを実施するという形にしたい。

(事務局) いただいたご意見等、可能な限り反映させたいので、パブリックコメント等の手続きに進みたい。今後のスケジュールとしては、本日まで承認いただいた「川越市産業振興ビジョン」の原案について、庁内における手続きを経て、令和 4 年 5 月中旬から 6 月中旬の約 1 か月間において、パブリックコメント（意見聴取）を実施する。

パブリックコメントで出された意見については、改めて庁内において検討したうえで、次回の川越市産業振興審議会に諮り、そこでの審議を踏まえて、市長への答申をお願いしたい。その後、庁内における手続きを行い、最終的な川越市産業振興ビジョンが策定されるという形になる。